



## 【中学校の部】

## 「チーズはどこへ消えた？」を読んで

ひらた清風中学校3年 阿部 航太さん



「変わらなければ破滅するようになる」

これは、ホーが恐怖に負けな  
いよう、自分を奮い立たせる  
ために壁に書いた言葉です。この言葉は、人生で起きるたくさんの変化への考  
え方を変えてくれます。今回読んだ「チーズはどこへ消えた？」には、小  
人のヘムとホー、ネズミのスニップとスカリーが登場  
します。この二人と二匹は、毎日迷路でチーズを探して  
暮らしています。チーズとは、私たちが人生で求める  
もの、迷路とは、それを追いつめる場所です。ある日、二人と二匹はチーズステーションCという  
場所で大量のチーズを見つけました。そして毎日そ  
の大量のチーズを食べて過ごしました。しかし、毎日  
チーズを食べていたので、チーズはだんだん少なくな  
り、ついに無くなってしまいました。チーズがだんだ  
ん減っていることに気づいていたスニップとスカリー  
は、すぐに新しいチーズステーションを探しにいきま  
した。しかし、待つていればきつとまたチーズが現れ  
ると考えたヘムとホーはチーズステーションに留まり  
続けます。やがて、待つていてもチーズが現れること  
はないと気づいたホーは、チーズを探しに行こうとヘ  
ムを誘いますが、ヘムは居心地の良い場所を去ること  
を怖がり、ホーとケンカをします。

そのころ、スニップとスカリーはたくさんチーズ

があるステーションNを見つけました。チーズを  
探しに行くことを決心したホーは一人で迷路に足を  
踏み入れます。恐怖と戦いながら、大事な考えを壁  
に書いて進んでいきます。そしてついにホーは、チ  
ーズステーションNに到達します。私がこの本を選んだきっかけは、学校の先生に薦  
められたからです。簡単な哲学の本と聞いて、興味  
をもちました。中学生で、普段は特に何も考えずに  
過ごしてきた自分に、この本はたくさんのことを教  
えてくれました。それと同時に、大切なことを考え  
させてくれました。

「変わらなければ破滅することになる」

冒頭にも書いたこの言葉は、チーズを探しに行くこ  
とを決心したホーが、最初に書いた言葉です。ホーは  
この言葉をヘムに贈りました。私自身、この言葉のおかげで、いろいろなことに対  
してやる気が出てきました。私は、今まで学校のテス  
トでは、そこそ良い点数を取ることができていまし  
た。何か特別にしていることもなく、毎回同じような  
点数を取っていました。しかし、この本を読んで改め  
て考えてみると、私は現在の点数に満足してしまっ  
ていたのだと気づきました。この本でいうと、チーズ  
を見つけてから何も考えずに、毎日チーズを食べて  
いたヘムとホーのような状態です。もし、この本を読  
んでいない状態で点数が下がっていったら、私はどう  
なっていたでしょう。おそらく、チーズがなくなっ  
たことが自分のせいだということ認めなかったヘムの  
ように、たまたま悪かっただけで、次はきつと元通り  
の点が取れると思うだろうと思います。この本では、  
変化は誰にも必ず起こるものだと書いています。ま  
だ、私にとつての変化は起こっていませんが、それに

備えていきたいと思えます。

「古いチーズに早く見切りをつけなければそれだけ早く  
新しいチーズが見つかる」再びチーズ探しを始めたホーは、新しいチーズの  
かけらが少しだけ残るチーズステーションを発見し  
ました。もっと早く探しに来ていればと反省する  
ホーはこの言葉を書きました。私にとつてのチーズと  
は、テストの点数で、今は満足している状態です。今  
の点数で満足せずに、さらに上の点数を目指して努  
力すれば、ホーのように恐怖を乗り越えて笑えるよ  
うな人間になれるのかもしれない。「早い時期に小  
さな変化に気づけばやがて訪れる大きな変化にうま  
く対応できる」スニップとスカリーからかなり遅れてチーズを探し  
始めたホーは、のちにその道中を振り返ってそう反  
省しました。ネズミ達は、やがてチーズがなくなるこ  
とに気づいていて、なくなつてからもすぐにその変化  
に適応することができました。ネズミ達のように、毎  
日の日常生活の中から、どんなに小さな変化にも気  
づけるように私も考えながら生活していきたいと思  
います。自分のことをあまり考えずに生活していた私です  
が、今回この本を読んで考えてみると、自分はヘムの  
ような人間なのかと思います。しかし、この本のた  
くさんの教訓を元に努力して、ホーのような人にな  
りたいと思います。新しいチーズを求めて、今まで力  
を入れてこなかった勉強を頑張っていきたいと思いま  
す。「チーズはどこへ消えた？」は、中学生のぼくに  
も、大事なことを教えてくれました。この本に出会  
えてよかつたなと思いました。



# 箱根駅伝 ~タスキをつなぐ~

第98回箱根駅伝が1月2日・3日に開催され、宗像聖選手（東京国際大3年・永田）と吉田凌選手（創価大1年・小平）が出場しました。

本村出身選手2人が箱根駅伝の同一大会に出場するのは初の快挙となります。宗像選手は9区を走り区間9位タイ、吉田選手は8区を走り区間8位の記録を残しました。

## 吉田 凌 選手

今回は1年生として初めて箱根駅伝の大舞台に出場させていただきました。スタート前は緊張していましたが楽しみな気持ちもありました。走っているときは仲間や応援してくださっている人の気持ちを持って必死に走りました。チームとしては目標の総合3位には届きませんでしたが、シード権を獲得することはできたのでまた来年今回以上の結果を残せるよう頑張ります。

少しでも村民の皆さまに勇気や感動をお届けできるよう努力しますので、これからも応援よろしくお願い致します。



## 宗像 聖 選手

往路が7位で復路を走る人がしっかり走らないとシード権を取ることができないという難しい感じだった。自分が走る区間までに順位を上げてきたおかげでチームの目標としていた3位を狙うことができる位置でタスキをもらうことができ、前半は自分らしい走りをする事ができていた。15km過ぎに中央大学に前に出られてから焦りが出てしまい、少しペースが落ちチームの順位を下げるかたちでアンカーにタスキを渡すことになったのは申し訳ない気持ちでいっぱいになった。自分の力のなさを改めて感じた。大学生活最後の次年度には、箱根総合優勝だけでなく、大学三大駅伝三冠を目指して笑顔で終われるようにしたい。

新春の箱根路で諦めない走りを見せてくれた宗像選手、吉田選手。今後ますますの活躍を期待しています。



大会後、役場を訪れ談笑する2人